

形容動詞の活用 確認テスト（ナリ・タリ活用） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

解答・解説

問1 ナリ活用。言い切りが「あはれなり」で「なり」で終わる。

問2 連体形。下の体言「夕暮れ」に連なるため。(ナリ活用連体形=なる)

問3 断定の助動詞。「夕暮れ」という体言に付いて「～である」と判断を示しており、「夕暮れ」自体は状態を表す語幹ではないため。形容動詞「あはれなり」の「なり」(①前半)とは別。

問4 あはれなり。

問5 たいそうしみじみと趣のある夕暮れであったことよ。

問6 ナリ活用。言い切りが「静かなり」。

問7 終止形。「心静かなり。」と言いつけている。(ナリ活用終止形=なり)

問8 連体形。下の体言「山里」に連なる。(なる)

問9 已然形。接続助詞「ば」に連なる。(已然形+ば/なれ)

問10 已然形。接続助詞「ど」に連なる。(ナリ活用已然形=なれ)

問11 のどかなり。

問12 タリ活用。言い切りが「漫々たり」で「たり」で終わる。漢文訓読調の語。

問13 タリ活用。言い切りが「堂々たり」。

問14 終止形。「堂々たり。」と言いつける。(タリ活用終止形=たり)

問15 城の構え(つくり)は堂々としている。

問16 タリ活用形容動詞「漫々たり」の連用形活用語尾「と」。「漫々と+して」の形で、状態を表す語幹「漫々」に連用形「と」が付いたもの。断定の助動詞ではない。

問17 連体形。下の体言「大将」に連なる。(タリ活用連体形=たる)

問18 堂々たり。

問19 ナリ活用。言い切りが「にぎやかに」。

問20 都はにぎやかであるけれども。

問21 花やかに。「花やかにし」の「し」は過去の助動詞「き」の連体形で、連用形に接続する。よって直前の「花やかに」はナリ活用の連用形活用語尾「なり」であり、基本形(終止形)は「花やかに」となる。

問22 ア・イ・ウ・エ（すべて）。ア・イ・ウはナリ活用の連用形活用語尾「に」、エはタリ活用の連用形活用語尾「と」。ナリ活用は連用形に「に」と「なり」、タリ活用は連用形に「と」と「たり」の二つの形をもち、ここに挙げた「に」「と」はいずれも連用形である。

問23 ア。「心静かなり」の「なり」は形容動詞「静かなり」の終止形活用語尾。イ「夕暮れなり」の「なり」は体言「夕暮れ」に付く断定の助動詞。

問24 ナリ活用は和語（やまとことば）の状態語に広く用いられ、タリ活用は「堂々」「漫々」など漢語の語幹に付いて漢文訓読調で多く用いられる。